



令和6年度 幼児教育研修（保育の質向上）

「見直そう 計画と記録」

日時：令和6年5月28日（火）15:00～17:00

会場：西新井文化ホール

講師：和泉短期大学 教授 松山 洋平 氏

エピソード記述 ● 保育マップ型記録 ● ポートフォリオ

保育記録には多様な種類がある

ドキュメンテーション ● ラーニングストーリー

振り返って
味わうこと
が大切



記録は「したこと」「言ったこと」だけを書けばいいの？

「したこと」ではなく「自分が体験した心を感じたこと」を書いていくことが大事だよ。



エピソード記録【自分の記録】

自分にとって心揺さぶられたその体験を忘れないでおこうと思う時に残しておく記録（出来事を羅列した記録ではない）
→子どもの理解が深まる。新たな気付きや学びにつなげることができる。

エピソード記述【共有する記録】

エピソード記録の中から「私が体験した心を感じたこと」を人に伝える記録。他人にも是非ともわかってほしいと思って背景・エピソード・考察として書き直した記録。

★ キーワードは「対話」 ★



保育の質を高めるには、心を開いて語り合う『対話』が必要

→目の前の子どもの姿から興味、関心や発達が見え、子どもにとってどのような意味があったのかなど意見を出し合って考えていくことで「対話」が起こる。子どもの声に耳を傾けた記録や計画を共有することで保育の質が向上する。保育者の成長には、共感的な場を築き合っていくことが欠かせない。

相手が何を考え、何を感じていたのかなどを読み取り、書き出していく。

→同じような場面があったら、こうしてみようと思ったことを書き足す。

→**計画になる**
(これからも大事にしていくこと)

子どもの興味、関心から計画につなげられることで、子ども主体の保育につながる。



ゼミ研修を通して、新たな計画や記録（保育ウェブ）にチャレンジした、昨年の受講生による実践報告がありました



・子どもの姿をそのまま記録したり写真を取り入れて（可視化）記録したりすることで職員間の共有が図れた。

・子どもの様子をよく見るようになったことで、気付かなかった姿が見えてきた。

・テーマが大きいと難しいので、活動を絞って書くといい。



発表を聞いて、記録のイメージがもてたり、やり方がわかったりした研修生が多かったです。



・やり方はいろいろあっていい。（例）

- ・一人の子にフォーカス
- ・その日のテーマについて
- ・子どもの遊び

・子どもの遊びの姿から、遊びの提供や準備をしていった。遊びの様子から必要な環境が見えてくる。

・いろいろなことに気付き、担任間で共有が図れ、コミュニケーションにもつながる。

記録と計画は子どもの姿を中心に繋がっている

- 相手が見ているものをただ見るのではなく、その行為を意味づけている状況も見えていく。（何におもしろがっている？なぜ、着目しているの？）

→横並びのまなざし

- 読み取った子どもの姿を可視化する（写真撮って記録）ことで、説明しやすく伝わりやすくなる。
- 対話が生まれる

- 心揺さぶられた子どもの姿を記録することで、子どもの様子、発見、援助、環境構成など、より具体的に見えてくる。そこを書き足すことが計画になる。

研修生の報告書より

実践報告を通して、より具体的で、子どもの姿を捉えた内容になることを学んだ。クラス打合せで活用してみたい。環境を含め、子どもの姿を多角的な視線で捉えることができ、継続的な育ちにつながるもので大変参考になった。

記録は「したこと」や「結果」を書くのではなく、自分が心に感じたこと、心揺さぶられたことを書くことで、記録と計画の距離が近づき、子どもの理解につながることを学んだ。保育ウェブの書き方、活用の仕方は興味深く、従来の書き方よりもワクワクする。子どもの姿やつぶやきを、そのまま書くことで子ども理解につながり、自分自身の学びや視点を意識した省察ができるメリットが多くあると感じた。